

# Sho Jaku Kan

同志社大学図書館報

書籍館

vol.8

2019  
Autumn

特集 1

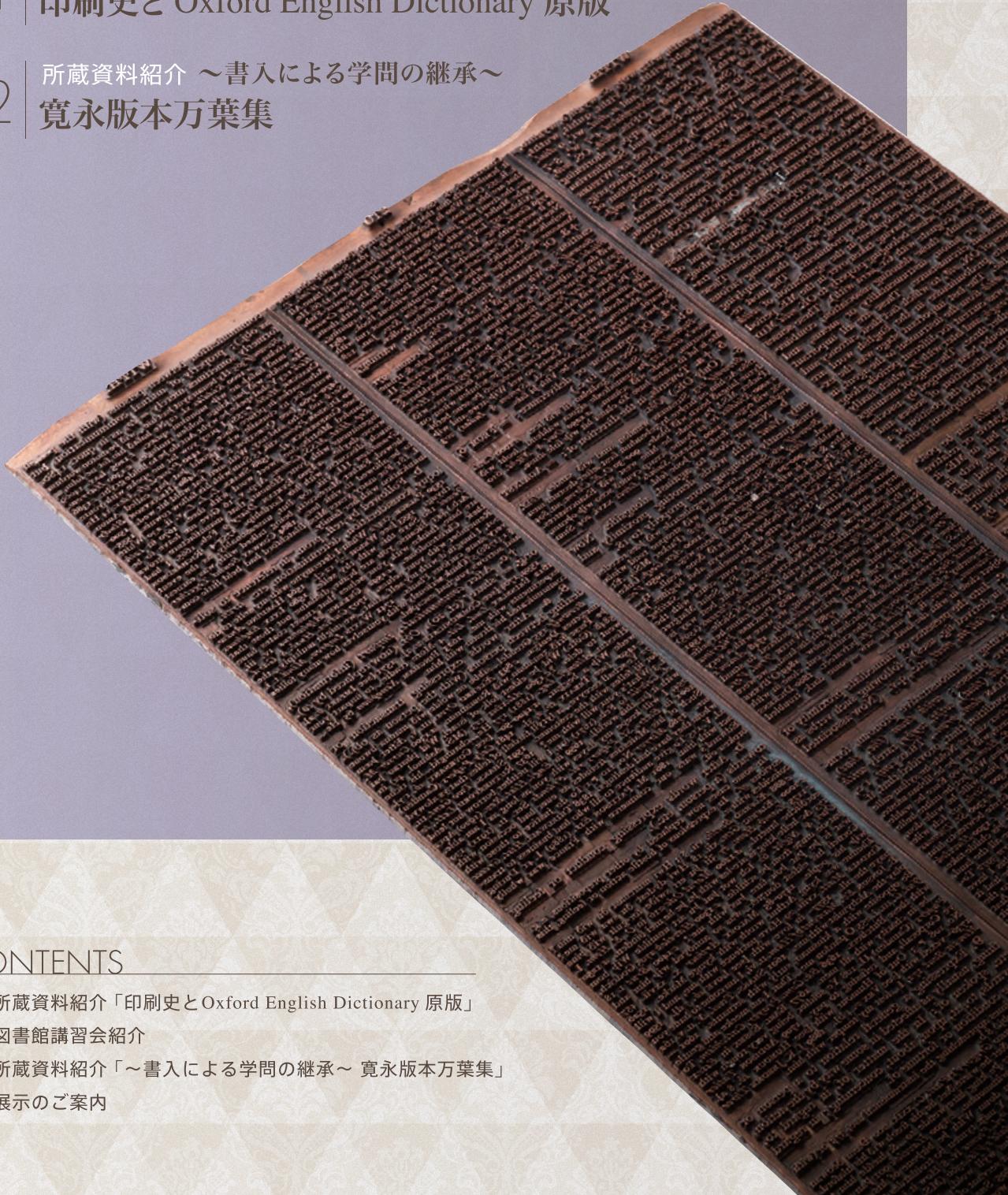
所蔵資料紹介

印刷史と Oxford English Dictionary 原版

特集 2

所蔵資料紹介～書入による学問の継承～

寛永版本万葉集



## CONTENTS

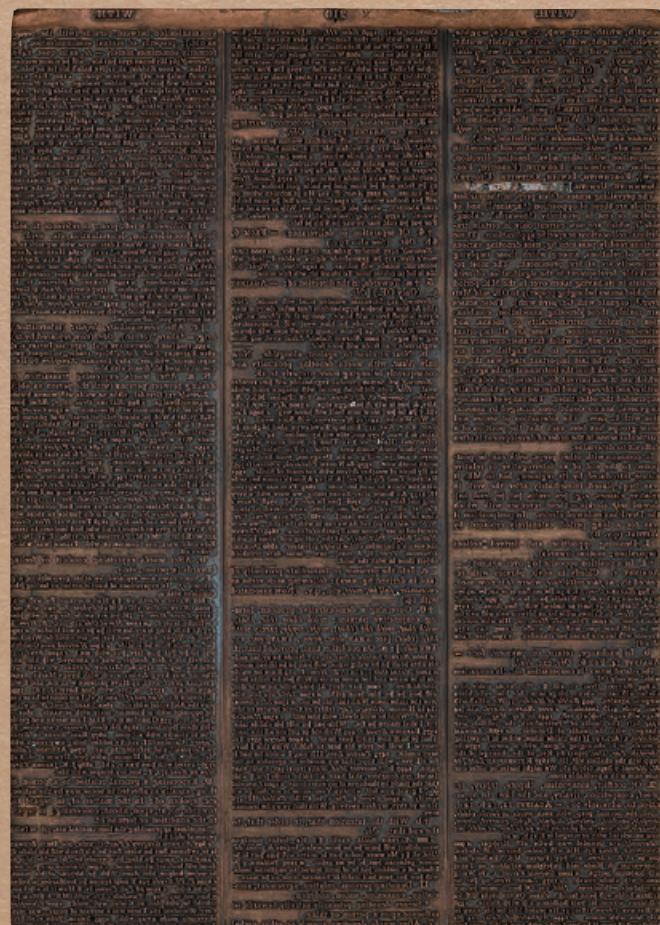
- 01- 所蔵資料紹介「印刷史と Oxford English Dictionary 原版」
- 03- 図書館講習会紹介
- 05- 所蔵資料紹介「～書入による学問の継承～ 寛永版本万葉集」
- 07- 展示のご案内

# 印刷史とOxford English Dictionary原版

本資料は『A New English Dictionary on Historical Principles(NED)』、後に『Oxford English Dictionary(OED)』(オックスフォード英英辞典)と改称して知られる英語辞典の印刷原版のうちの1枚、“with”という語の一部のページである。(図1)NEDは1884年から1928年にかけ125分冊で刊行され、1933年にOEDと改称し全12巻+新たに編まれた補遺1巻として刊行し直された。本資料は1933年版の第12巻210ページの印刷原版であるが、刊行元であるオックスフォード大学出版局によればOEDの印刷にはNEDの印刷原版が使い回されているとのことであり、本資料は1928年刊行のNED第125分冊(wise-wyzen)の印刷にも用いられたという。最後の分冊のはずなのにzの巻でないのは、刊行順が必ずしもアルファベット順ではなかったためである。

イギリスの言語学会が「まったく新たな英語辞典」の計画にとりかかったのは1857年のことで、NED本編の編集・刊行だけでも70年以上を費やしたことになる(単純な刊行だけでも、40年以上継続している)。それだけの時間を要したのは、NEDを特徴づける「まったく新たな」点を実現するため、すなわち豊富な用例を、できる限り遡って収集・編纂することで、語がたどってきた変遷を辿ることができる辞典を作ろうとしたためである。そのために多数の協力者が募られ、それぞれに担当する資料(印刷された書籍が中心だが、新聞等も含み、逆に印刷発明以前の資料からの用例もある)の中からあらゆる語の用例を採取し、書きとめ、編集本部に送った。編集主幹らは集まった何百万もの用例を年代順に整理することで、ある語の使われ方がどう変化していったかを用例とともに示すことを実現した。例えば本資料が扱う“with”的場合、西暦893年の用例が最も古いものとして示されている。本資料とあわせてデジタル化された、本資料を用いて印刷されたOEDのページを実際に見てみれば、語義自体の説明よりも用例が多くを占めていることがよくわかる。

長きにわたる大事業だけあって、編集に携わる人物も多く、また編集主幹も代替わりしている。関係者のうち最も著名なのはジェームズ・マレー博士で、彼なくしてはNEDの完成はなかったと考えられるが(マレーが編集主幹に就くまで事業はほとんど頓挫していた)、本人はNEDの完成を見ることなく、1915年に亡くなっている。本資料に収められた“with”的項目を担当していたのは1895年から編集に参加し、マレーの死の直前の1914年に編集副主幹に就いたチャールズ・アニアンズである。アニアンズは『オックスフォード英語語源辞典』等も後に手がけるなど、多くの辞典編纂に携わった人物であり、OEDの第4代編集主幹として補遺の編纂にも携わった。ただ、そのアニアンズですら、すべての補遺が刊行され、OED第1版が完成する20年以上も前に亡くなつた(アニアンズは1965年に死去、最後の補遺の刊行は1986年)。



(図1)見出し語 “with” のうちの1ページに相当する印刷原版

ところで本資料はNED、OEDの「印刷原版」であるが、そもそも印刷原版とはなんだろうか？もちろんこの原版にインクを塗って、紙に転写したことは間違いないのだが、印刷について少し知っている（しかしそれでも詳しいわけではない）人であれば、1ページまるごとの「原版」というのはどういう存在か疑問を覚えるだろう。NEDもOED1933年版も、いわゆる活版印刷によって作製されている。これは文字1つずつからなる「活字」を組み合わせることで、多様なテキストを印刷することができるようになるものである。現代でも活版印刷体験ができる施設・印刷所は複数あるが、そこでは目当ての活字を抜き出し、組み合わせて体裁を整え、枠に収めて万力のような機械でしめつけ、固定する体験をすることができる。しかし本資料はどう見ても1枚の板であり、活字の組み合わせではない。

実は前述のような、組み合わせた活字をそのまま使う技法は活版印刷の比較的初期のものである。人力ではなく動力をを使った大量印刷を行う場合には崩れかねないので不向きであるし、書籍のような何度も増刷されるものの場合も、増刷の都度、活字を組み直すのでは手間が大きすぎる。一方で組んだ活字をそのままにしておくのでは、なんのために活版印刷を使うのかがわからない（それなら文章を全部、板に彫り込んでしまえばいい）。実際にアジア圏ではこうした印刷の方が活版印刷発明後も主流であった。そこである時期からは、活字で印刷したい版面を組んだ後、なんらかの方法でその複製を作成し、以後はその複製の方を印刷に用いる（組んだ活字はバラして再利用する）ことが一般化した。

複製を作成する方法として、日本においては紙型を用いた手法（紙を重ねて活字の鋳型を作り、そこに鉛等を流し込む）が一般的である。ただし、この手法には鉛の熱で紙型が若干、収縮し、元の活字より小さくなるという欠点もある。これに対し、欧米では電気鋳造（電鋳）技術を用いて元の版の完全な複製を作成する手法が普及した。このような印刷技術をelectrotype（電鋳板、電胎版）と呼ぶ。本資料はまさにこの電鋳板である。

なぜその電鋳版が、同志社大学図書館に所蔵されているのか。1989年に石田政弘先生から寄贈されたもので、オックスフォード大学出版局も確かに真品であると鑑定しているが、なぜお持ちであったかの来歴は不明であるという。オックスフォード大学出版局が独自の印刷所を閉鎖した1989年前後から、多くの所有物が処分されたとのことで、その時期に出回ったものの一つが本学に所蔵されているのかもしれない。オフセット印刷（水とインクが反発しあう性質を利用した、平版印刷）が主流化して以降、電鋳板はじめ活版印刷技術が顧みられることは少なくなり、本資料も現用としての役目は終えて久しかったと考えられる。とはいっても貴重な印刷原版、それも70年にわたったNED刊行事業の最後を飾った分冊の原版である。幸いにして機関リポジトリからデジタル化された高精細画像

も閲覧することができる。この原版から刷られたNEDの第125分冊刊行を喜んだ多くの人々、収録された用例を採取した人々、さらに刊行を目につくことのなかった尽力者たちに思いを馳せつつ、ぜひ一度、眺めてみていただきたい。



(図2) Oxford University Press  
による来歴証明



(図3) 本原版による印刷ページのコピー

#### 参考資料

- ジョナサン・グリーン著. 辞書の世界史.  
三川基好訳. 朝日新聞社, 1999, 559p.  
サイモン・ワインチェスター著. 博士と狂人.  
鈴木主税訳. 早川書房, 2006, 358p.



佐藤 翔 免許資格課程センター准教授

#### 研究分野／

- 情報学/知能情報学  
情報学/図書館情報学・人文社会情報学  
著書／  
「情報の評価とコレクション形成  
(わかる! 図書館情報学シリーズ 2)」(共著)  
「情報倫理 ネット時代のソーシャル・リテラシー」(共著)他



#### 同志社大学学術リポジトリ

Doshisha University Academic Repository

<https://doors.doshisha.ac.jp/duar/repository/ir/>

配架場所	巻 次	請求記号
今出川図書館 貴重図書室	印刷原版	749.44  O9702  1
今出川図書館 貴重図書室	付属資料	749.44  O9702  S

※同志社大学 学術リポジトリの「貴重書コレクション」でもご覧いただけます。



# 図書館講習会

図書館を活用し、  
みなさんの大学での学修に役立てられるように  
レベル・目的に合わせた講習会を多数企画しています。  
ぜひご活用ください。

図書館ホームページ[図書館講習会 e-learning]もご活用ください。  
講習会に関連した内容をWeb上で学べます。講習会に参加できなかつたとき、内容を復習したいときなどに、自由に学ぶことができます。  
※Webシングルサインオンサービスからご利用ください。

★ 2019年4月より、モバイル端末でも全メニューを視聴できるようになりました



## 図書館講習会のレベル・ラインナップ

課題が出される、テーマを決める、  
調べたいことがある

手持ちの本や情報では不十分  
図書館に行ってみよう！

調べ方を身につけて  
知識を増やそう！

調べながら考える  
考えながら調べる

さらに詳しく  
テーマを絞ろう！信頼できる資料、  
使うべき資料を精査しよう！

図書館員や他の図書館も活用しよう  
研究資料の幅がさらに広がる

入門

まずはここから！図書や雑誌記事・論文を探す！

・大学生の図書館活用術

初級

各種データベースを使ってもっと広く資料を集める！

・効率的に情報・資料収集！データベースの選び方

中級  
(1)

レポート・卒業論文の作法から、資料収集のノウハウまで！

・レポート・論文・卒論のためのテーマ設定と書き方の基礎  
・レポート・プレゼンの説得力アップ！裏付け情報・統計データの収集

データベース講習会

- ・JapanKnowledge Lib
- ・RefWorks
- ・Scopus
- ・ProQuest Dissertations & Theses Global
- ・ProQuest Historical Newspapers: The New York Times
- ・ヨミダス歴史館(読売新聞)
- ・Nexis Uni
- ・JDreamⅢ

…など

中級  
(2)

プロが教える！シリーズ

「プロが教える！シリーズ」では、図書館資料の活用法や、大学での学修の仕方について、各分野のプロフェッショナルの方をお招きし、プロならではの視点から、知識やスキル等についてお話しいただきます。気になるテーマを見つけたら、ぜひご参加ください！

▶ 次ページ参照

情報をまとめて自分の意見を表現しよう  
論文・レポート作成・プレゼンテーション準備



※内容は変更する可能性があります。

# 講習会の予定 [ 2019年度 秋学期 ]

※内容は予告なく変更になる場合があります。

## ●図書館講習会 初級・中級

- ・データベースの選び方
- ・テーマ設定と書き方の基礎
- ・裏付け情報・統計データの収集

## ●データベース講習会

- ・ProQuest Dissertations & Theses Global
- ・ProQuest Historical Newspapers:  
The New York Times
- ・ヨミダス歴史館(読売新聞)
- ・Nexis Uni(今出川のみ)
- ・JDreamⅢ(京田辺のみ)

## ●プロ講習会

- ・プレゼンの基本
- ・大学生のための新聞の「読み方」
- ・統計数字にダマされるな！
- ・大学生と著作権
- ・企業情報、政策・統計情報の集め方
- ・クリエイカル・シンキング

詳しくは、図書館ホームページ[講習会のお知らせ]をご確認ください。

順次、最新情報を掲載しています。その他、お申込みやお問い合わせは、  
今出川図書館またはラーネッド記念図書館のレファレンスカウンターまで。

<https://library.doshisha.ac.jp/skillup/index.html>



## ▶ プロが教える！シリーズ(プロ講習会)ラインナップ — 2019年度 春学期実績 —

### ▶ 企業情報、公表統計を探索してみよう！～各種情報の入手と活用法～

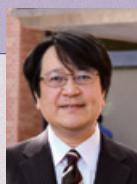
レポートや論文を書く際に、エビデンス(根拠)となる資料の存在は重要です。

スマホで検索するだけでは分からぬ、公表統計の探し方や、

企業情報の集め方のノウハウを身に付け、

活用するスキルを磨きましょう！

講師:竹廣 良司 氏  
(同志社大学 経済学部 教授)



### ▶ レポート・卒業論文作成に必須！引用・参考文献の『正しい』書き方

レポートや論文作成で重要な「引用」や「参考文献」。

あなたは、ルールなどを意識しないで、曖昧に書いてしまっていませんか？

「正しい」書き方を学んで、レポートや論文作成のスキルを高めましょう！

講師:藤田 節子 氏  
(元・川村学園女子大学 教育学部 教授)



### ▶ TV番組リサーチャーが教える！プロフェッショナルの『情報術』

TV番組「ガッテン！」や「行列のできる法律相談所」などを手がけた

情報のプロから、今日から使える情報収集テクニックが学べます。

情報過多の今、情報収集力で差をつけるチャンス！

講師:喜多 あおい 氏  
(株式会社ズノー 知的生産計画室チーフリサーチャー)



### ▶ 英語多読用資料を使った『効果的な語学学習』とは

語学力を上げたいなら、「多読」がおすすめ！

多読用資料(ESL)の選び方、継続していくコツを知って、

語学力のレベルアップに繋げましょう！

講師:稻垣 俊史 氏  
(同志社大学 グローバル地域文化学部 教授)



### ▶ 教員が本音で語る“よい”レポート・論文執筆のコツ～テーマの選び方で中身も決まる！～

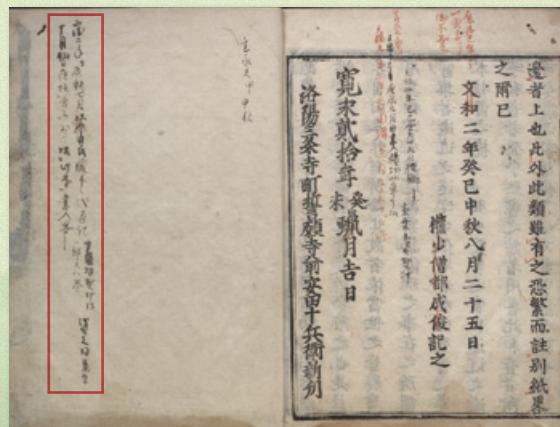
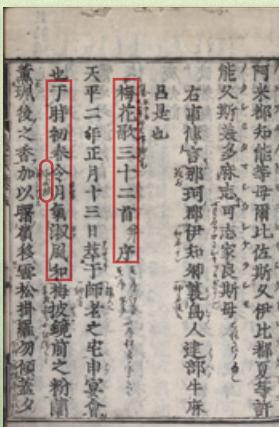
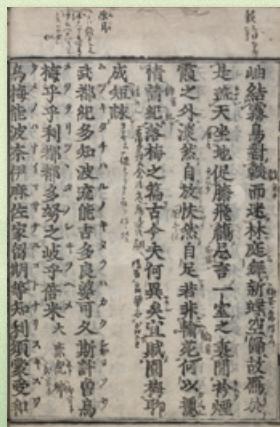
レポートや論文課題、一体何から始めたらいいの？

あなたの論文をより「光らせる」コツを、多くの学生の

レポート・論文を見てきたプロの視点でお教えします！

講師:野末 俊比古 氏  
(青山学院大学 教育人間科学部 教授)





図版2：卷五・十四丁表・裏

令和の典拠「梅花歌三十二首并序」。「令月」の左に「帰田賦」とあります。

図版1：卷二十 奥書

邊者上也此外此類雖有之恐繁而註別紙墨  
之間已  
文和二年癸巳中秋八月二十日  
權少僧都成俊記之

洛陽桑寺町乳頬寺前安田十兵衛新刊

寛永貳拾年癸亥月吉日

主次次子中

まで契沖が講義を行ったこと、さらにその後元禄十三年九月まで書入れが続けられたことがわかります。つまり本学所蔵本には、似閑が契沖校本の内容を書き、契沖の講義を受け、その後も四年間研究を続けた際に使用した万葉集から書き写した形跡も見られるのです。

では正徳二年に代匠記を借りて校合を行った人は誰でしょうか。伊勢国、津の国学者である谷川士清の書入れがある万葉集の奥書には「正徳二年（壬辰）秋七月以「今井氏藏本之代匠記」校「合」之樋口氏宗武／寛保第二壬戌十一月廿一日以「樋口氏藏書」校註畢 谷川士清」とあります。谷川士清は「正徳二年の校合記録を樋口宗武によるとしています。したがって本学所蔵本の「樋口氏」（巻一・二十六丁表）の朱の書入れは樋口氏による可能性があります。

樋口宗武は似閑の門人で契沖の学統に連なり、似閑の遺志を継いで上賀茂への契沖関係文書奉納を完了しました。伴蒿蹊『近世畸人伝』には契沖とともに門人である今井似閑らに加え、樋口宗武（主水）について「京師に樋口主水といへるは、似閑門人なるよし。此家に代匠記の善本、又講説を書入し万葉集など藏せるよし。二十年前自火に焼亡す。惜むべし。」と記しています。結局、本学所蔵本は樋口宗武書入本万葉集にもとづいて書入が行われた寛永版本万葉集であり、この本への書入れが實際誰の手によるのかはわかりませんが、谷川士清書入本万葉集とは姉妹関係にあるようです。なお本居宣長の書入本ももとは樋口宗武本から出たものとされています。契沖の万葉代匠記は江戸期には写本として伝えられるだけで公刊されなかつたため、樋口宗武本は契沖の万葉学を知ることができることで、キリストとして重宝されたのです。

契沖から今井似閑、樋口宗武という篤い師弟関係を垣間見ることができるとともに、江戸初期において万葉集研究が版本によって市井に開かれ、書入によって学問が継承されていくありようを知ることができます。



垣見 修司 文学部教授

## 研究分野／

万葉集や古事記など日本上代文学の研究

## 著書／

「下にも長く汝が心待て

－巻十三・三三〇五～三三〇九問答考－」

(「萬葉」二二六号、平三〇年十月)

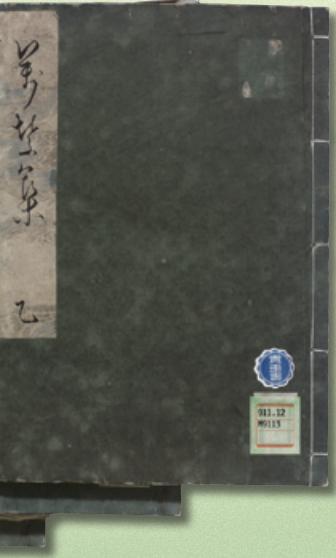
「「萬葉集」巻十三の異伝注記」

(「文化学年報」六八輯、平三一年三月)

配架場所	巻 次	請求記号
今出川図書館 貴重図書室	巻第1～20	911.12  M9113  1～911.12  M9113  20

新元号「令和」の出典となつた万葉集の貴重書のうち、本学が所蔵する『寛永版本万葉集』を紹介します。

万葉集は成立当時の原本といえるものが現在伝わりません。現存最古の万葉集は平安時代の桂本で、巻四の一部が残されています。「二十巻すべてが残る完本としては鎌倉時代の西本願寺本万葉集が最古です。これら近世以前の諸本はいずれも写本ですが、江戸時代になると木版本が刊行されるようになります。活字無訓本と活字附訓本の後、寛永二十年（一六四三）に刊行されたのが『寛永版本万葉集』（二十冊）です。題簽は「万葉和歌集」とあるのが普通ですが、本学所蔵本は「万葉集」とあります。



表紙



卷一七丁 巻頭歌

本学所蔵の寛永版本の奥書にも「寛永式拾笑末／臘月（陰曆十一月）吉日 洛陽三条寺町誓願時前安田十兵衛新刊」の刊記があります。後には別の書肆・出雲寺和泉掾が版木を購入し刊記を替えただけの『寛永版本万葉集』を刊行しており、実質的に寛永版本の本文が基本的なテキストとして広く普及しました。江戸時代に契沖や賀茂真淵、本居宣長らがすぐれた万葉集研究の業績を残すことができたのは、寛永版本の普及によって万葉集を誰もが手にとって読むことができるようになったためでもあるのです。ちなみに三条寺町・安田十兵衛の出版活動は寛永四年（一六一七）頃から元禄年間（一六八八—一七〇四）まで、出雲寺和泉掾は明暦年間（一六五五—五八）に今出川通に創業したとされ、昭和年代まで続いた書肆です。

寛永版本は宝永版本が刊行されるまでの六十六年の間に増刷を重ねたため、後刷のものには版木の摩滅により不鮮明な箇所や補刻された部分が見られます。本学所蔵本も巻一三十九丁裏にある刷りの不鮮明な部分と、補刻された形跡が後の刷りに近いことを示しています。巻一の奥書を巻首に綴じている点も当初の形と異なります。

本学所蔵本の希少価値としては、全巻にわたる詳細な書入れの存在があげられます。

巻二十の奥書には「正徳二年（壬辰）秋七月以「今井氏蔵本之代匠記」〇〇〇契沖作／一部二十八巻／貸」之。同集至二十月晦日夜一校」「合之」云々。以「此本」書入畢」とあります（図版1参照）。正徳二年（一七一二）七月に今井似閑の所蔵する「万葉代匠記」を借りて、十月末まで校合を行ったことが記され、その本によつて書入れを行つたと述べています。

契沖は大坂今里・妙法寺の僧で、元禄期に起つた万葉研究の代表的な存在です。水戸光圀の依頼を受けて万葉集の全歌注釈『万葉代匠記』を著しました。漢籍にも通曉した該博な知識に裏付けられた文献学的方法を重視した研究は現在も高く評価されています。梅花歌序（巻五・八一五）の「子」時初春今月、氣淑風和について「於」是仲春令月、時和氣清」という後漢・張平子（衡）『帰田賦』（文選巻十五）の一節との類似を注釈史上初めて指摘しています（図版2参照）。今井似閑は契沖門下の高弟で、後に万葉代匠記も含む契沖関係の文書を賀茂別雷神社（上賀茂）に納めようとした力を尽しました。その万葉代匠記は似閑本として知られています。本学所蔵本の奥書にある「宝永元（甲申）秋」の書入れは似閑本代匠記に由来すると考えられます。

一方、似閑自身が書入れを行つた寛永版本万葉集も上賀茂に納められており、奥書にある書入れの多くは本学所蔵本と一致します。それによれば、契沖が元禄一年（一六八九）に校合を終えたこと、同九年（一六九六）五、九月

# 展示のご案内

今出川図書館

## レオナルド・ダ・ヴィンチの「水」

期間:2019年4月1日(月)~8月4日(日) ※終了しております  
場所:今出川図書館B1階 展示コーナー

本展では、今年(2019年)没後500年にあたるレオナルド・ダ・ヴィンチが、生涯を通じてその絵画作品や手稿において扱ってきた「水」をテーマとして、本学が所蔵するヴィンザー城王室図書館蔵ヴィンザーペーパーの「水の習作」(ファクシミリ版※)を中心にレオナルドが描いた「水」の世界を紹介しました。



イタリアのルネサンスを代表する人物であるレオナルド・ダ・ヴィンチは、「モナ・リザ」や『最後の晩餐』などの絵画作品でよく知られていますが、彩色され

た絵画は非常に少なく、その一方で膨大な量の手稿を遺しました。手稿で扱われている分野は多岐にわたっており、その内容は時代を超えた先駆性に満ち、「万能の人(ウォーム・ユニバーサル)」と称された彼の本領が存分に発揮されています。彼の科学的探究心は広範囲にわたっていますが、海や川、湖、雨や嵐、洪水などさまざまに形を変える「水」にも深い関心を示しました。

「万能の人」レオナルド・ダ・ヴィンチの「水」の世界を通じて、普段目にする機会が少ない貴重室の資料を身近に感じていただけたのではないかでしょうか。



※ファクシミリ版とは…

精巧な印刷技術によって、できる限り原本を忠実に再現した複製版

## 本冊子『書籍館』名前の由来

『書籍館』とは、図書館の旧称である。1872年に文部省が東京の湯島聖堂内に創設した図書館(現在の国立国会図書館の前身の一つ)の名であり、明治初期には、日本の複数の図書館が『書籍館』と称された。

同志社大学図書館の起源としては、1876年に校舎の1階に設けられた書籍縦覧室(図書室)が最初であり、その後1885年に初代図書館『書籍館』(現有終館)の定礎式が行われた。創立者新島は、教育方針の3要素の1つに“Well selected library”を挙げており、自身の蔵書も教員生徒等に公開して、教育に情熱を注いだ。この図書館報の名称『書籍館』は、図書館報の発行にあたり、新島がいた原点に戻って、同志社大学図書館を再考したいという思いから名付けたものである。



## 同志社大学 図書館報 vol.8 [書籍館] 2019年10月1日発行

編集・発行:同志社大学図書館

〒602-8580

京都市上京区今出川通烏丸東入

Tel:075-251-3960

Email:ji-gakjo@mail.doshisha.ac.jp

<https://library.doshisha.ac.jp/>



※同志社大学図書館(以下、「図書館」)では、これまでに発行した刊行物について、2019年12月以降、図書館HPにおいて全文公開していくたいと考えております。詳細は図書館HPをご参照ください。対象刊行物の著作権者の方で、公開にご同意いただけない場合は図書館HPに記載の手続きをお願いいたします。